

謝辞

この度は、応用化学科褒賞という名誉ある賞を頂き、身に余る光栄と、深く感謝しております。このような賞を頂けましたのは、化学の面白さや奥深さを熱心にご指導くださった応用化学科の先生方のおかげです。心より御礼申し上げます。

応用化学科での学生生活は、コロナ禍と同時期に始まりました。対面での講義や実験ができず、新しい環境で不安を抱えながら、オンライン授業を受講していたことが懐かしく思い出されます。コロナ禍でも学びを止めず、自宅で授業を受けられる環境を整えてくださった先生方に深く感謝申し上げます。

対面での講義や実験が再開され、今まで当たり前であった生活がいかに尊いものであったかを実感いたしました。特に、実験では実際に手を動かして五感で観察することの重要さを強く感じました。講義で学んだ理論が理解に繋がっていき、楽しさを今でも覚えております。時間を忘れて文献を読み漁り、実験結果と照らし合わせて考察を重ねた日々は、現在の研究活動に活かしていると

確信しております。

四年次の研究活動では、自分のテーマに責任を持ち、研究を前に進めていくことの大切さを痛感いたしました。先生方や先輩方からご助言を頂きながら、自分なりに真摯にテーマと向き合い、

仮説検証を繰り返すことで、新たな知見を得ることの喜びや達成感を味わうことができました。修士課程に進学後も、恵まれた環境で学べることの感謝を忘れず、邁進していく所存です。将来は応用化学科で学んだことを糧に、化学で社会に貢献できる人材になれるよう今後も精進して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

最後に、本賞の設立および選考に関わられた全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今までお世話になりました先生方、先輩方、同期の皆様、そして家族に重ねて感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

二〇二四年 三月二十六日

早稲田大学 先進理工学部 応用化学科

長島